

I 福山市

ミッション

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。

ビジョン

各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	チャレンジ&チェンジする力、自己理解力、自己表現力
・「オール新市」を掲げる中で、地域の良さの発信やボランティアの取組など、もっと地域を好きになる取組を進めてほしい。 ・HPなどでの出前授業の取組（キャリア教育の取組）は興味深く、今後も継続して児童生徒にたくさん学んでいただきたい。 ・学校に登校できない子供たちにも目を向け、そこへの取組をもっと発信した方がよい。（知らない人が多い）	・全国学力・学習状況調査等をはじめとした学力調査を踏まえ、基礎的・基本的な内容の定着に重点を置く必要がある。 ・キャリア教育の実践を通じ、校区で育てたい資質・能力を意識しながら様々な活動に取り組むことができており、4月当初から12月末で、肯定的評価をする児童生徒が増えている。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	・自分の目標達成に向けた計画を立て、取り組む児童生徒。そして、その取組を定期的に振り返り、改善策を考える児童生徒。 ・自分の将来の夢や目標を持つ児童生徒。 ・自分の思いや考えを相手に分かりやすく説明する児童生徒。
		中学校区として統一した取組等	・地元事業者や地域の方と育成したい資質・能力を共有しながら、出前授業、探究学習、職場体験学習、面接など、様々な取り組んでいく。

III 自校

ミッション	育成する力 資質・能力	チャレンジ& チェンジする力	自己理解力	自己表現力
明日の新市を拓く「生きる力」の育成				
学校教育目標	めざす 子ども像	低学年	自分のやりたいことに挑戦している。	自分のよさに気づく。
新市の町で、自ら学び、やさしく、たくましく生きる子どもたちの育成		中学年	困難なことにも挑戦し、最後までやりきることができる。	自分の得意なことや夢中になれることを見つける。
		高学年	活動を振り返り、改善策を考えることができる。	自分の将来の夢や目標を持つ。
現 状	研究			
<児童> ○ 国語科、算数科を中心に、各教科等で学ぶ児童の姿は変わりつつある。 ・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」児童 50.0%(4月)▶89.7%(2月) ・「自分の思いや考えを、相手や場に応じて分かりやすく説明している」児童 72.6%(10月)▶84.3% ○ 全国学力・学習状況調査の正答率が、国語科・算数科ともに全国平均に達していない。正答率 40%未満の児童も、20%を超えており、問題を読み解く力、思考の過程を表現する力、問題を解くために求められている知識・技能の定着が不十分である。 ・全国学力・学習状況調査 正答率 40%未満の児童 20.7% ・単元末テスト 正答率 40%未満の児童 国語 2.0% 算数 7.0% <授業> ○ 授業づくり、カリキュラムの充実等に対し、教職員の意識は着実に向上している。学力調査結果を踏まえ、改善ポイントを意識した授業づくり、地域資源を活用した実感を伴う授業づくりを進め、学力の向上につなげていく必要がある。 ・「子どもの学びや発達への理解をもとにカリキュラムを見直し、実践している」教職員 91.7%(10月)▶92.3%(2月) ・「地域の人や課題などに児童が触れる機会を持っている」教職員 66.6%▶75.0%(2月) ・「教科の面白さを実感している」教職員 100%(10月)▶100%(2月)				テーマ 実感を伴い、考える過程を大切にしたい学びづくり ～思いや考えを表現することを通して～ 内容等 ・正解を求めるだけでなく、正解にたどり着く過程を大切にしたい授業づくり ・自分の思いや考えを「話す、聞く、書く、描く」ことにこだわった授業づくり ・そもそも「何を学ぶか」「何につまずいているか」に立ち返った教材研究
めざす授業の姿				・確かな教材研究を土台に、「何を学ぶか」「何につまずいているか」「どう学ぶか」を明確にし、各学年の学習内容を確実に身に付けている。 ・文章を読み解き、言葉、数、記号の意味、根拠を問うている。 ・「繰り返し身に付けること」と「考えることを通して身に付けること」を一体的に捉え、授業や授業につながる帯タイム・家庭学習に意欲的に取り組んでいる。 ・新市の課題を解決することを通じ、各教科等で身に付けた力を発揮している。

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立新市小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	□ 評価	□達成 評価	□改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	□ 評価	□達成 評価	□総合 評価
2	子どもが学びに向 かう力、学び続け る力、なりたい自 分に向かう力を育 成する。	★	見 直 し	目標達成のための方 法を考え、粘り強く 取り組む子どもを育 成する。	・教科学力の定着と生活習慣 の確立を一体的に捉え、授業 づくりポートフォリオを起 点とした授業改善、家庭学習 等の充実を進める。 ・つますきの早期発見と確か な教材研究を通し、各学年の 学習内容を身に付ける取組 を評価・改善・更新する。 ・校区で毎週水曜日をメディ アコントロールデイとし、ゲ ーム等の時間を自己管理す る力を育成する。	・「カリキュラムを見直し、実 践している」教職員前年度以 上(R6 92.3%) ・学力調査、単元末テスト等の 正答率40%未満児童前年 度以下(R6 学テ 20.7%) ・「1日のゲーム3時間以上」 児童前年度以下 (R6 学テ 43.3%) ・「課題解決に向け、自ら考え、 取り組む」児童前年度以上 (R6 89.7%)								
			見 直 し	自分や地域のよさ や課題を知り、思い や考えを相手や場に 応じて分かりやすく 説明できる子どもを 育成する。	・地域の課題を解決する過程 で、場や相手に応じた表現活 動に取り組む。 ・地域資源を活かした授業等 を通して、多様な人や考えに 触れる場面を設定する。	・「自分の思いや考えを、相手 や場に応じて分かりやすく 説明している」児童前年度以 上(R6 84.3%) ・「地域の人や課題など」に児童 が直接触れる機会を持ってい る」教職員 85%以上 (R6 75.0%)								
			継 続	子ども一人一人が力 を発揮できる多様な 学びの場を充実す る。	・個別に配慮を要する児童の 指導計画を作成し、保護者・ 関係機関との共有及び改善 に取り組む。 ・学校図書館運営協議会を月 1回以上開催し、児童の利用 状況に応じた運営改善に取 り組む。	・不登校児童の出現率減少 (R6 2.6%) ・「学校に行くのは楽しい」児 童前年度以上 (R6学テ 90.0%) ・個別の指導計画の作成及び 家庭との共有100% (R6 100%) ・「学校図書館を利用している 児童」前年度以上 (R6 44.9%)								
5	教職員が元気・笑 顔で勤務できる 環境を充実する。		継 続	教職員が実践力を高 めるとともに、やり がいや充実感を持っ て教育活動を行う。	・各教員が「研究テーマ」を設 定し、授業公開を行うことで 「教科の面白さ」を味わう。 ・教材研究デー、No会議デー を毎月設定する。 ・教職員発の取組を実現化し、 所属感や自己肯定感の向上 に努める。	・「教科の面白さを実感してい る」教職員100% (R6 100%) ・「授業づくりの時間が確保さ れている」教職員前年度以上 (R6 58.3%) ・「個性が認められている」 教職員前年度以上 (R6 83.3%)								

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。